

(概要版)

経営効率化に向けた今後の取り組み

2023年12月22日

阪神高速道路株式会社



©A.M/J-23

阪神高速グループは、「先進の道路サービスへ」を理念とし、安全・安心・快適なネットワークを通じてお客さまの満足を実現し、関西の暮らしや経済の発展に貢献するため、経営の効率化に取り組んでまいりました。

近年、働き手不足、インフラの老朽化、地球環境の保全、デジタル革命の加速等、阪神高速グループの事業環境は劇的に変化しています。このような変化や社会の要請に応え、サステナブルな高速道路サービスをご提供するため、今後とも不断の経営効率化に取り組むこととし、「経営効率化に向けた今後の取り組み」を取りまとめました。

○コストの縮減

労務費・資材費の高騰等の社会環境の変化に対応するため、新技術の活用等により、建設事業・維持修繕業務のコストを縮減します。また、料金所の無人化・ETC専用化により、料金収受業務を効率化します

○お客さまサービスの向上

お客さまからご要望の多いパーキングエリアの改善、渋滞対策、情報提供の充実等に取り組めます

○地域への貢献

2025大阪・関西万博への協力、沿線自治体等と連携した地域活性化等のため取り組みを実施します

○経営体制の効率化と経営の透明性向上

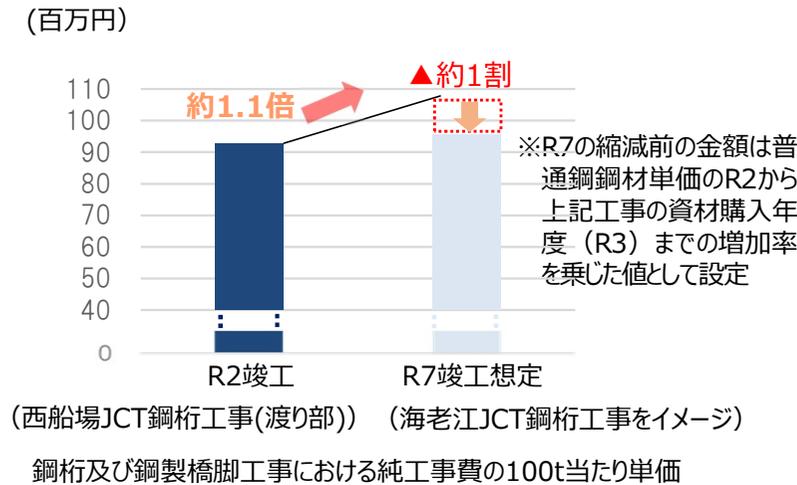
環境変化等にも対応しつつ、グループ経営体制の進化に取り組み、また、一層の経営の透明性向上に努めます

1. コストの縮減

近年の労務費・資材費等の高騰等の社会環境の変化に対応するため、新技術の活用及びDXの推進等による建設事業、維持修繕業務のコスト縮減や、料金所の無人化・ETC専用化による料金収受業務のコスト縮減を実現します

(1) 建設事業

災害に対する強靱化、労務費・資材費等の高騰による建設コストの増加を抑制するため、新技術の活用や施工の効率化等により、初期投資コストを約1割縮減します



(事例)

鋼管集成橋脚の開発

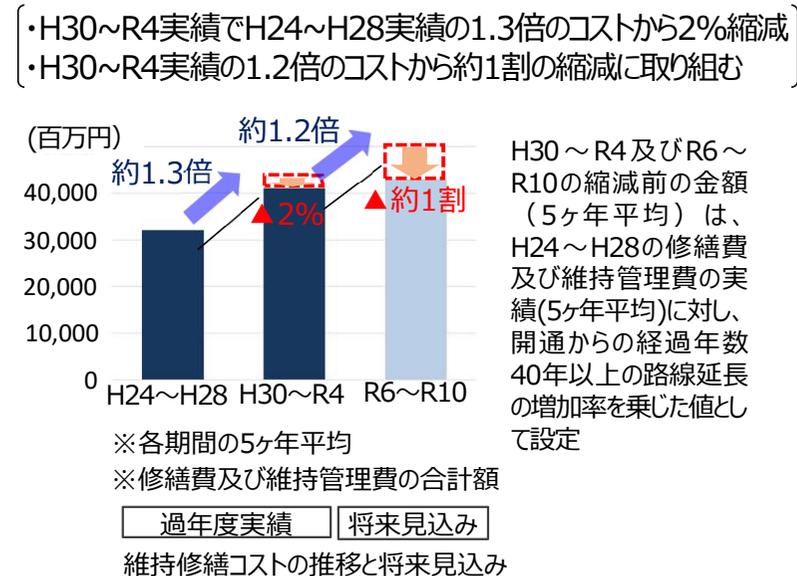
- 通常の鋼製橋脚と比較して軽量化することにより、基礎を含めたコストを縮減
- 被災時に鋼管の損傷を抑え、せん断パネルの取替により復旧が可能となり、補修コストも縮減



今後、適用拡大を検討

(2) 維持修繕業務

構造物の老朽化や労務費・資材費等の高騰によるコストの増加を抑制するため、新技術の活用による効率化や構造物の高耐久化等により、維持修繕コストを約1割縮減します



(事例)

路面走行しながら舗装・伸縮装置等の点検が可能な車両の活用 (『ドクターパト2.0』)

- 走行しながら舗装や伸縮装置を点検することが可能となり、交通規制や点検員を削減
- 車線規制による交通への影響を解消し、安全性も向上



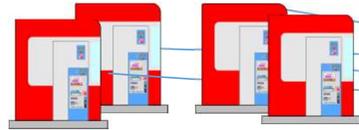
今後、適用拡大を検討

(3) 料金收受業務

料金收受業務の更なる効率化を図るため、全料金所での段階的な無人化と、ETC利用率向上の取り組みを実施します

遠隔対応機器の設置

遠隔サポートセンター



全料金所で段階的に
無人化・ETC専用化を実施

(現在) 全143料金所中、無人化50箇所。うちETC専用化13箇所

ETC利用率を向上させる取り組みを実施

- ETC車載器の購入費用を助成するキャンペーンを継続的に実施
- 今後、アンケート結果を活用し、効果的な取り組みを検討



2. お客様サービスの向上

お客様のご要望が多い「パーキングエリア（PA）の改善」「渋滞対策」「情報提供の充実」に対応し、更なる改善に努めます。また、お客様のご要望の変化、サステナビリティの実現等の社会の要請等を踏まえつつ、新たなサービスを展開します



©A.M/Rf-61

(1) PAの改善

お客様のご要望が多いパーキングエリアの増設や、多様なニーズに対応する取り組みを実施します

①PAの新設

中島本線料金所跡地に中島PA（仮称）を建設しています

②授乳室、オストメイト対応トイレの設置



授乳室



オストメイト対応トイレ

③ユニバーサルデザイン化



ゴミ箱のピクトグラム（全PAで統一）

④インバウンド対応



コンシェルジュカウンターの改装イメージ



多言語表記・ピクトグラム

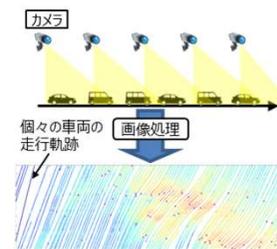
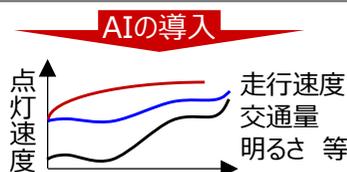
(2) 新技術を活用した渋滞対策

①AI等の活用

スムーズな走行環境を実現するため、AI等を活用し、渋滞対策を高度化します

交通量や明るさ等に応じて点灯パターンを最適化

速度回復誘導灯



ZTD(Zen Traffic Data)の活用

- 隙間なくカメラで撮影
 - 画像処理により、1台ずつの走行軌跡をデータ化
- 渋滞発生箇所や原因を的確に把握

②通行止め工事の改善

通行止め工事の期間短縮や、通行止めを回避する車線運用の工夫等に取り組みます

(3) 情報提供の充実

お客さまがご出発前・ご出発後に必要な情報を簡単に入手できるよう、情報の精度と分かりやすさを向上します



渋滞通過時間情報のご提供



LINE公式アカウントによる情報サービス

(4) 阪神高速の利用促進

阪神高速の利用促進や沿線地域の振興・活性化を図るため、お客さまの利便性を考慮した企画割引を実施します



3. 地域への貢献

●大阪・関西万博への協力

交通課題への対応（シャトルバス自動運転、ボトルネック対策等）や、機運醸成への協力（橋梁等のライトアップやパーキングエリアへの万博プロモーションスポット設置等）に取り組みます

●沿線自治体や施設との連携

沿線自治体と連携したイベントやキャンペーンを実施します。また、景観面に配慮した道路構造物の建設や既存の道路構造物を活用した景観形成に取り組みます

4. 経営体制の効率化と経営の透明性向上

■グループ経営体制構築の目的

阪神高速道路の運営・管理に必要な機能を維持しつつ、専門的技術・ノウハウを活かし安全・安心・快適に走行できる高速道路サービスを提供



グループ経営体制を構築し自ら実施することで「品質の維持・向上」と「効率性の向上」を同時実現しています

グループ経営体制のメリット

- 意思決定の迅速化
- 専門能力の向上
- 親会社のスリム化 等

↓
経営の効率化
業務効率性と品質の向上

■グループ経営体制の進化に向けた今後の取り組み

- | | |
|---------|---|
| 事業環境の変化 | <ul style="list-style-type: none"> ・働き手不足、自然災害の激甚化、構造物・設備の老朽化 ・料金所の無人化・ETC専用化の進展 ・DX等技術革新の加速、サステナビリティの実現 |
|---------|---|

- | | |
|--------|--|
| 取り組み内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・業務内容・分担の見直し、グループ内の契約方式の進化 等 ・料金所無人化等の業務形態の変化に対応した業務実施体制の見直し(整理・統廃合等) |
|--------|--|

更なる業務品質と効率性の向上に向けて、グループ経営体制進化の取り組みを継続します

■経営の透明性向上

今後も、ステークホルダーの皆さまのご意見等を踏まえつつ、外部有識者等によるチェックや情報の公開を継続し、一層の経営の透明性向上に取り組みます